

大野城市

高架下周辺まちづくりニュース

No.1

(5) スケジュール

関係機関と調整を図りながら、事業を推進していきます。

	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	
連立事業			高架工事				高架切替	事業完了				
関連事業			側道・駅前広場・公園整備等									
高架下整備												
利用開始									部分利用開始			
市民	しみん会議		シンポジウム				市民参加の継続					

(6) 工事の進捗状況

着実に高架化の整備が進み、沿線地域の新しい様子がわかるようになってきました。



大野城市 高架下周辺まちづくりニュース No.1 (令和元年6月発行)

福岡県大野城市 建設環境部 連立・高架下活用推進室

〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号

TEL:092-580-1967、Fax:092-572-8432

現在、本市においては、鉄道によるまちの分断や踏切による慢性的な交通渋滞を解消するため、福岡県により「西鉄天神大牟田線（春日原～下大利）連続立体交差事業（鉄道の高架化）」が実施されています。本市ではこの事業に合わせて、高架下空間などを活用し、市の中心市街地としてふさわしいにぎわいや回遊性の創出、まちの魅力の向上を目指しています。

平成26年より、ワークショップ等を通して市民のみなさまとともに検討を進め、平成28年に「大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）、以下基本計画（案）」を作成した以降も、西日本鉄道株式会社や専門家、大野城市内の関係団体の代表の方々とともに、検討を行っている状況です。

ここでの検討は、高架下をはじめ、側道や駅前広場等の整備内容はもちろん、その場所を利用する市民のみなさまが、訪れたい・使いたいするための仕掛けや体制など多岐にわたっています。

今回は、その検討内容を広く市民のみなさまにも知っていただくことを目的に、「高架下周辺まちづくりニュース」として取りまとめました。

ぜひご覧いただき、今後の魅力あるまちづくりにご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



令和元年6月発行

大野城市 連立・高架下活用推進室

(1) 高架事業や基本計画（案）の概要

● 高架事業の概要

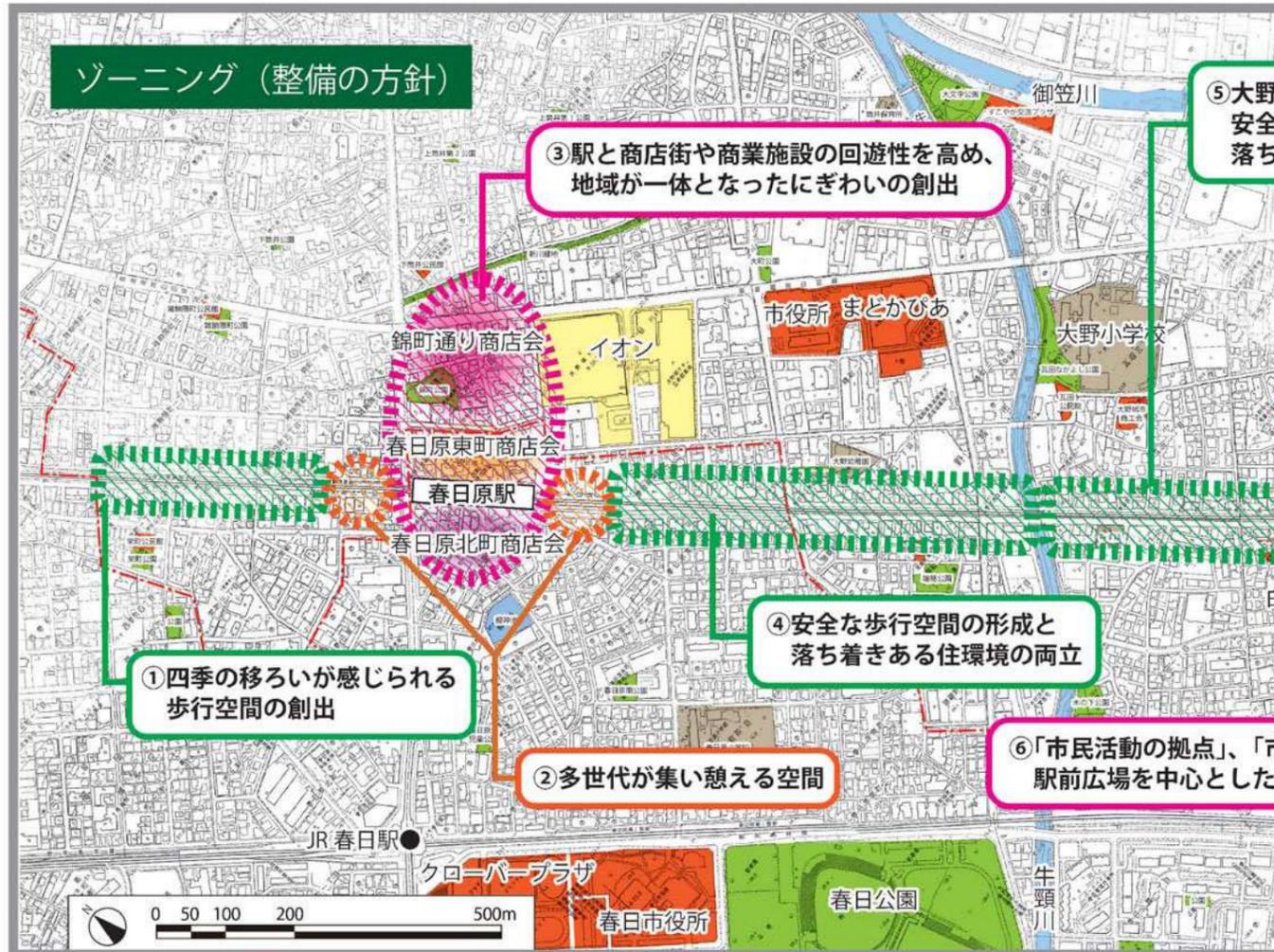
福岡県では、大野城市内及び春日市内において約 3.3 km 区間の鉄道施設を高架化する「西鉄天神大牟田体交差事業」を実施しています。この事業により、既存道路 12 箇所において踏切を除却、交差道路を 7 箇所において道路と鉄道を立体交差化します。また、白木原駅から下大利駅周辺にかけては、仮線により高架工事を幅員の道路となり、特に高架下と一体となったゆとりある整備を実施することが可能となります。

● 基本計画（案）の概要

大野城市では、本事業がより市の魅力やにぎわいづくりへとつながるよう、基本計画（案）において、「大野城市の新しい顔・都市軸となる空間の創出」や「市民・事業者・行政が共働で取り組むまちづくりの実現」を基本理念とし、基本方針や場所ごとの整備の方針、整備のイメージなどを取りまとめました。

※基本計画（案）：大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）（平成 28 年 3 月）

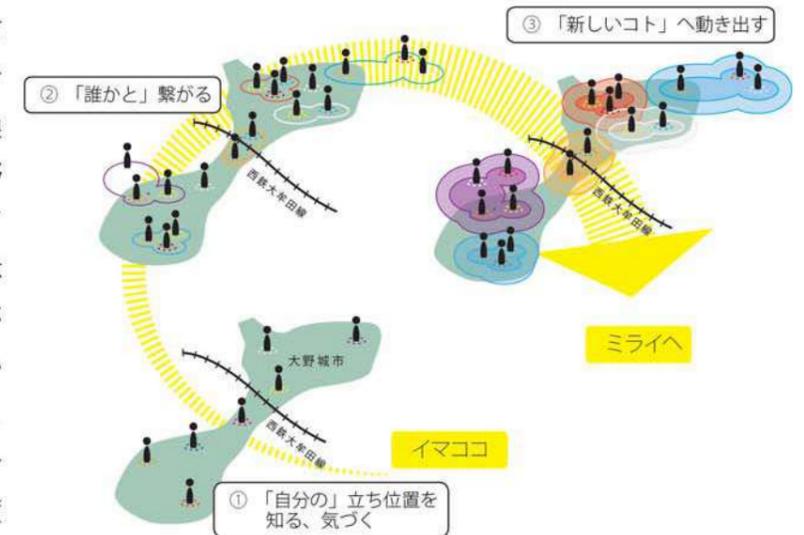
- <基本理念>**
大野城市の新しい顔・都市軸となる空間
市民・事業者・行政が共働で取り組む
- <基本方針>**
- ① 駅・高架下空間とその周辺に「にぎわい」
 - ② 高架下及びその周辺エリアで「憩い」、「日常」
 - ③ スムーズで快適な歩行者・自転車ネット
 - ④ 高架下空間から大野城市の歴史・自然へ



(4) 大野城市高架下活用勉強会

【概要】

高架下周辺整備を契機とし、市の魅力やにぎわいの創出に向けて、まちづくりに関する意見交換や仲間づくりを目的とした「大野城市高架下活用勉強会」を実施しています。これからの大野城市全体のミライづくりに向けて、市民が主体となって働きかけ繋がりがあいながら、互いに学んでいきます。これまで、3回開催しており、今年度も引き続き2か月に1回程度開催していく予定です。



● 第1回 平成 30 年（2018 年）12 月 6 日

人とまちをつなげていく取組みとは
～本から始まる仲間づくり・まちづくり～

“福岡を本の街に”を合言葉に本の魅力を伝える取組みを行っている「ブックオカ実行委員会」の大井実氏をお招きしました。本から始まる仲間づくりやまちづくりについて学びました。



● 第2回 平成 31 年（2019 年）2 月 27 日

コトでつながるまちづくり
～久留米 chietsuku プロジェクトの取り組み～

“暮らしに必要なプロジェクトをつくる業”として、「Visionarial」を運営する、おきなまさひと氏と中村路子氏をお招きしました。まちでコトを起こしていくことについて学び、深めました。



● 第3回 平成 31 年（2019 年）5 月 29 日

仲間のみつけ方・つながり方
～「福岡テンジン大学」の事例から学ぶ
人と人、人と街、人と社会を繋ぐ関係性のデザイン～

「福岡テンジン大学」代表の岩永真一氏をお招きし、人と人々が学びあいコミュニケーションの輪が広がっていく仕組みについて学びました。



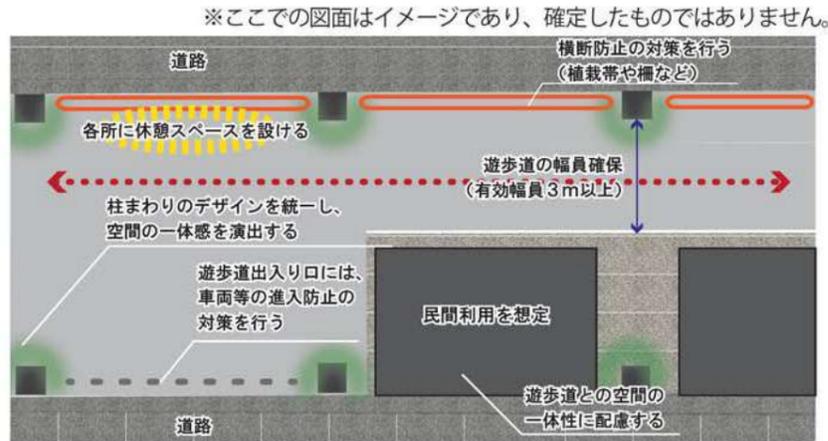
第6回

平成31年(2019年)4月16日(火)

基本計画(案)に基づき、市が整備する予定の内容(広場や駐輪場、遊歩道など)について検討を進めました。

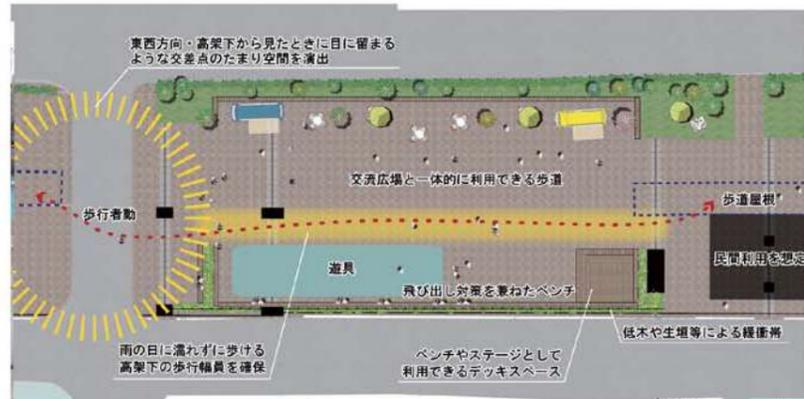
●遊歩道について

春日原駅～白木原駅間については、遊歩道を連続させる方針とし、交差点部のあり方や、たまり空間、幅員構成などの条件について検討を行いました。



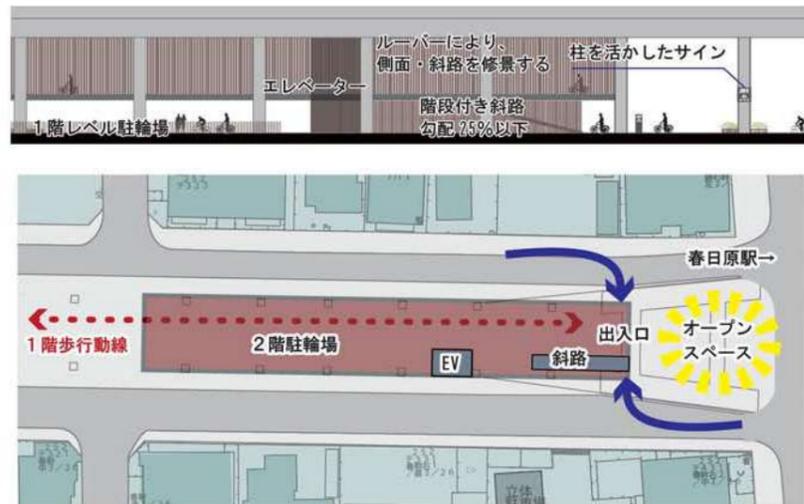
●広場について

春日原駅北、牛頸川交差点部、白木原駅～下大和駅間などの各駅間には広場を整備する方針とし、広場のあり方や空間配置の条件について検討を行いました。



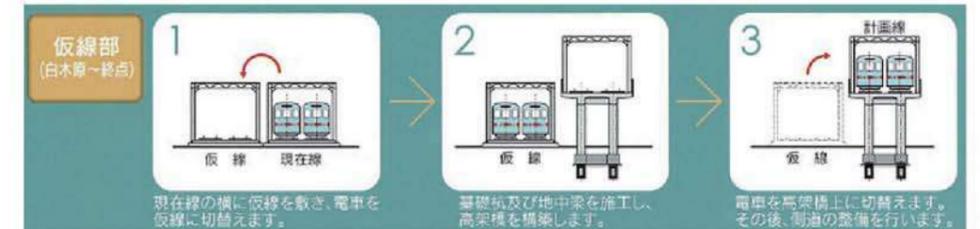
●駐輪場について

各駅とのアクセスが良い箇所に駐輪場を整備する方針とし、駐輪場計画における前提条件等の確認を行いました。今後、必要台数や必要面積、駐輪方式等について検討を行っていきます。



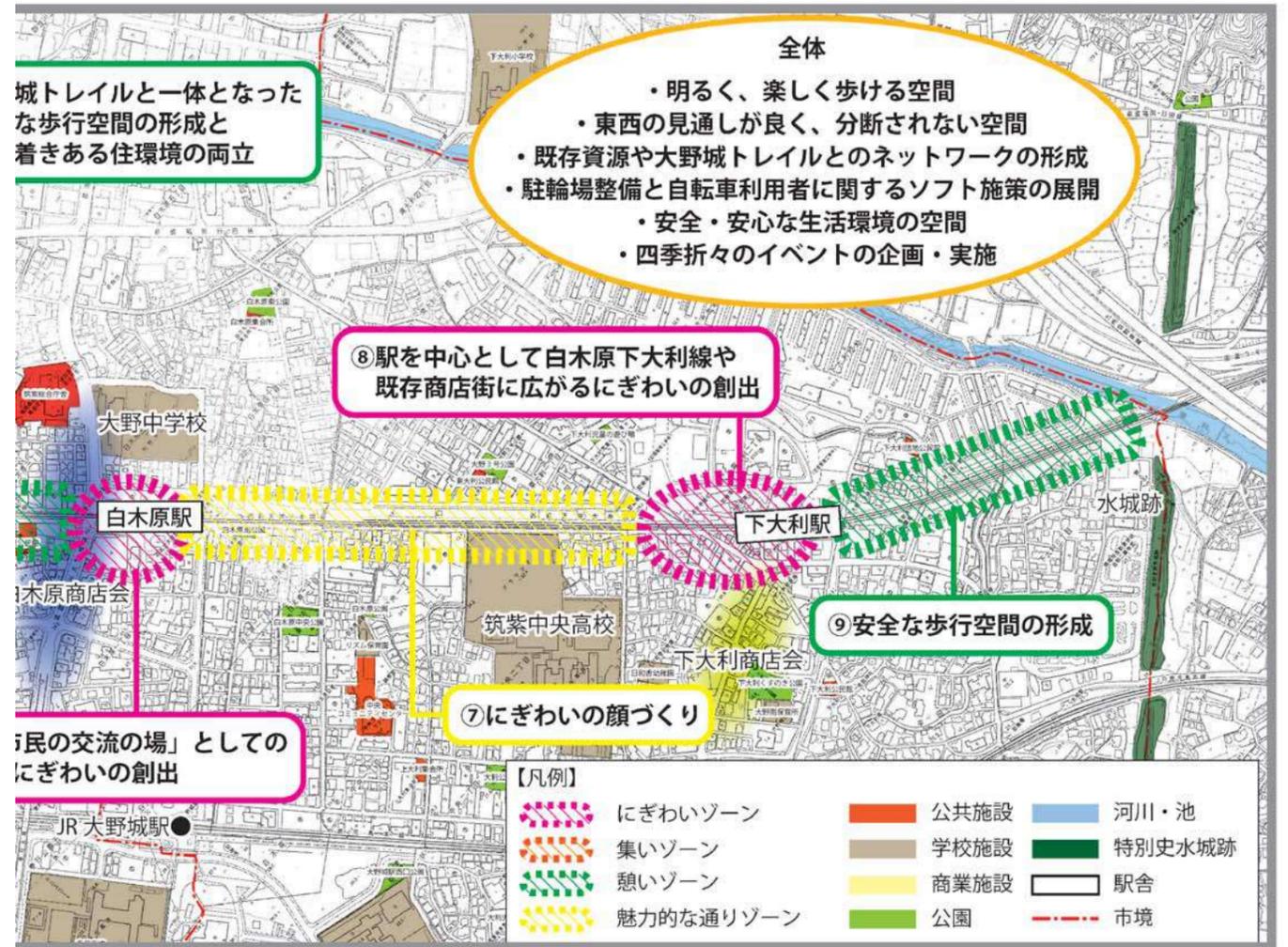
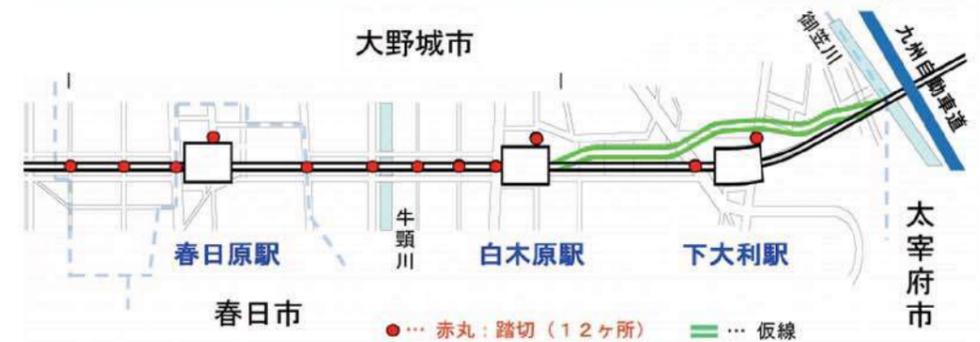
今後も、引き続きまちづくり会議を開催し検討を行っていきます。

線(春日原～下大和)連続立所新設し、合計19箇所にお行うため、両駅間の東側は広



●まちづくりの実現

を創出しよう
利用、「交流」の空間をつくらう
ワークを形成しよう
つながりを創出しよう



●整備イメージ

基本計画（案）において取りまとめられた、区間ごとに期待される整備のイメージは以下の通りです。ここではその一部を掲載しています。

<春日原駅北側>



●雨に濡れずに遊べる公園 ●地域住民や電車通勤の人が利用できる子育て支援施設 ●駅の近くのサイクルステーション ●カフェ等の飲食店 ●緑地に代わる地域の憩いの場としてのオープンスペース ●高架下施設利用のための駐輪・駐車場等

<春日原駅～白木原駅、牛頸川周辺>



●イベントや大野城トレイルの拠点として利用できるオープンスペース ●牛頸川にかかる鉄道用橋梁を有効活用したオープンスペース ●オープンスペースに隣接したカフェ等飲食店の設置 ●高架下における歩行空間等

<白木原駅～下大利駅>



●集客の核となるテナントの誘致 ●核となるテナントと連携できるオープンスペース ●明るく統一的なデザインによる施設整備 ●オープンスペースと一体的に活用できる屋根 ●雨の日でも濡れずに歩ける歩行者用の屋根等



●地域イベントや催事に利用できるオープンスペース ●オープンスペース利用者が立ち寄るカフェ等飲食店 ●勉強や託児、習い事など地域住民が利用できる教育・交流等支援施設の整備 ●明るく統一的なデザインによる施設整備等

<白木原駅前周辺>



●イベントなど様々な市民活動を行える空間 ●駅前広場と連続性のある駅舎内の施設整備 ●駅利用者用の駐輪場の整備 ●白木原下大利線と連続した緑豊かな空間づくり等

<下大利駅北側新公園周辺>



●公園と合わせて利用できる店舗の設置 ●明るく統一的なデザインによる施設整備等

※ここでの図面はイメージであり、確定したものではありません。

第5回

平成31年（2019年）2月4日（月）

側道の整備方針の検討・確認や、事業の進捗状況の報告、駅舎のデザインについての報告などを行いました。

●側道の整備方針について

側道の一方通行の規制について、各区間の方針を検討しました。鉄道両側にある側道の交通規制等を含めた道路のあり方について、検討を行いました。

●駅舎のデザインについて

県と西鉄で協議が実施されていた、3駅のデザインイメージについて進捗状況の報告を行いました。

■高架駅舎の外装デザインイメージ

<春日原駅>

◇ デザインコンセプト ◇
「人が集う 歴史を感じる ゆとりのエントランス」

【イメージカラー】
春日原の由来である春かすみ
→ 桜色 ■
【イメージマテリアル】
ガラスの勾玉（須玖岡本遺跡群）
→ ガラス ■



<白木原駅>

◇ デザインコンセプト ◇
「ここから始まる 人と人とのコミュニティエントランス」

【イメージカラー】
牛頸川、御空川の水
→ 薄水色 ■
【イメージマテリアル】
白木原駅付近の大野小学校のセンダンの木
（大野城市の天然記念物） → 木 ■



<下大利駅>

◇ デザインコンセプト ◇
「古（いにしえ）と緑につながる やすらぎのエントランス」

【イメージカラー】
大野城跡、水城の自然
→ 若芽色 ■
【イメージマテリアル】
水城の土塁
→ 土 ■



※この図は、駅西側のパース図です。
※駅舎及び駅前広場のデザインは、現時点のイメージであり、実際とは異なる場合があります。

(2) 市民参加のプロセス

第4回

平成30年(2018年)11月12日(月)

基本計画(案)の各箇所の考え方の確認及び条件等の一部変更に伴う見直しについて確認し、各箇所に対して検討を進めました。

●基本計画(案)の考え方の確認及び見直し

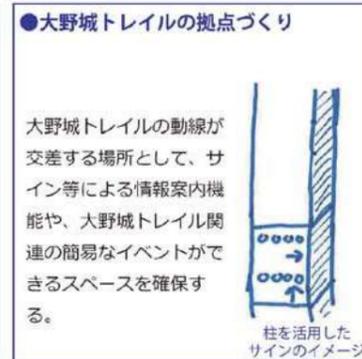
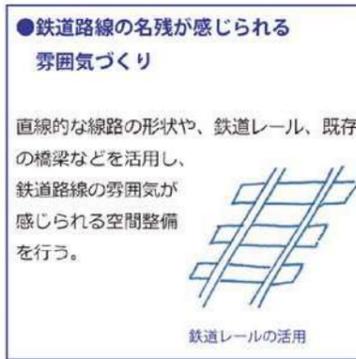
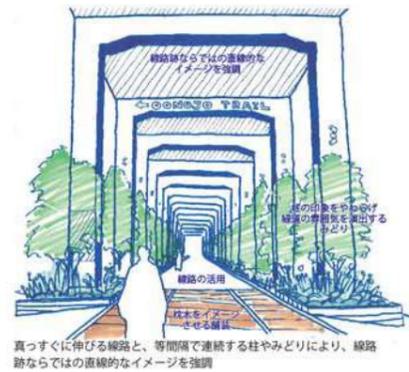
基本計画(案)以降に新たに設定された条件や、検討の進捗に伴い、下記のような内容の見直しの検討を行いました。

- ・交通結節機能として、車の待機場等の検討が必要となる可能性がある
- ・自転車レーン等について、検討を行う必要がある 等

●検討内容

基本計画(案)に基づき、整備方針の検討や空間のあり方、デザインの方針について検討を進めました。引き続き、条件を精査し、具体的検討を進めていく必要があります。

■空間イメージの検討



※ここでの図面はイメージであり、確定したものではありません。

●市民会議

平成26~28年に実施した「しみん会議ワークショップ」では市民の高架下周辺に関するまちづくりに対する想いについて話し合いを行いました。基本計画(案)は、その全7回の内容を踏まえたものとして取りまとめています。



●しみん会議の流れ	
第1回	テーマ：これからのまちづくりを考えよう！ 平成26年12月9日
第2回	テーマ：まちの将来像を考えよう！① 平成27年1月19日・26日
第3回	テーマ：まちの将来像を考えよう！② 平成27年2月16日・18日
第4回	テーマ：高架下空間を利用した将来のまちづくり計画を考えよう！① 平成27年6月20日
第5回	テーマ：高架下空間を利用した将来のまちづくり計画を考えよう！② 平成27年8月8日
第6回	テーマ：高架下まちづくり計画案案の確認 平成27年12月12日
第7回	テーマ：高架下まちづくり計画案案の報告 平成28年2月20日

●シンポジウム

平成28年10月には、「鉄道とともに作るまちのにぎわい」と題してシンポジウムを開催しました。

ここでは、基本計画(案)の内容について共有した上で、先進事例について学び、市民をはじめとして西日本鉄道株式会社や関係機関との協力体制の中で実現していく将来のまちについて、会場を交えたディスカッションを行い、多くのご意見をいただきました。



(3) まちづくり会議の進捗状況

第1回

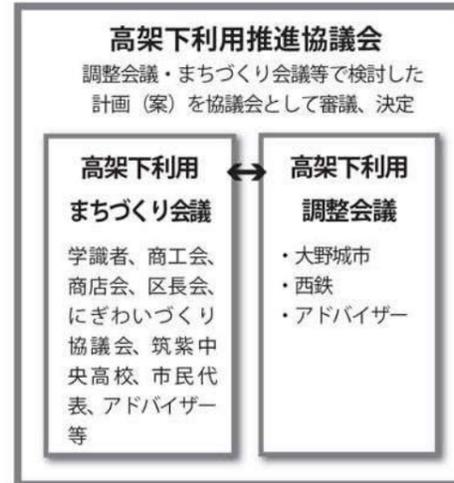
平成29年(2017年)10月3日(火)

「高架下利用まちづくり会議」を設立し、今後の進め方などについて意見交換を行いました。

●まちづくり会議の設立について

高架下空間及び沿線地域の将来の利活用に関する検討を進めるため、学識者やまちづくりに関係する組織の代表等で構成する「高架下利用まちづくり会議」を立ち上げました。この会議では、主に以下の内容について検討を進めています。

- ①高架下及び側道や駅前広場に整備する施設とその整備内容に関する検討(物理的な条件や法令上の条件、事業費の面等からの検討)
- ②高架下及び側道や駅前広場の利活用方法に関する検討(維持管理や運営方法等を含む)



第2回

平成30年(2018年)2月14日(水)

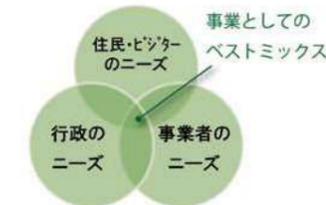
ニーズ調査のための「仮説(目指すべきゴールを示した"たたき台")」の検討について意見交換を行いました。

●仮説(案)の検討

プレイヤーとなる「住民」や「ビジター(来訪者)」、「事業者」、「行政」がもつニーズが重なるテーマを見出すことで、より効果的な整備や取組へと結びつくものとなります。3者がベストミックスできる事業実現に向けた仮説の設定について議論を行いました。設定した仮説に基づき、ニーズ調査やリーシング調査を実施し、検証を行っていきます。

■将来像となる視点と機能・施設のイメージ

<事業の将来像となる視点>	<機能・施設のイメージ>
1 次世代型の「暮らしのサポート」	社会環境の変化に伴う、次世代型のライフスタイルを支える生活サポート機能・施設
2 多様なアクティビティの生まれる「居場所づくり」	市民同士の交流や世代間交流、ビジターとの交流などアクティビティや憩いを創出する機能・施設
3 地域内外の新たな「ビジネスインキュベーター」	ビジネスのスタートアップや大野城市独自のコミュニティビジネスなどを支援する機能・施設
4 市民からビジターまで「多様な人々の交流・集客」	新たなコミュニティの交流や文化を育み、まちの拠点となるマグネット機能・施設



■中心となるターゲット像



第3回

平成30年(2018年)8月9日(木)

事業の進捗状況の報告や、白木原駅～下大利駅間の高架下の公共空間などについて議論を行いました。

●キーパーソンヒアリングの結果の報告

ニーズ調査・検討の進捗状況として、市内のキーパーソン(市内の事業者やまちづくりに関わる方々)にヒアリングした結果をもとに、高架下周辺に求められる機能についての検討の進捗報告を行いました。

■求められる機能の位置づけ



●白木原駅～下大利駅間の高架下の公共空間について

基本計画(案)に基づき、大野城市として、白木原駅間～下大利駅間の間で、ある程度の規模をもつ公共空間を整備していく方針とし、その施設の機能や、広場、一体的に利用される広幅員の歩道のあり方について意見交換を行いました。

■断面イメージ



※ここでの図面はイメージであり、確定したものではありません。